

2017年末賞与の見通し

— 一人当たり支給額が3年ぶりのプラスに —

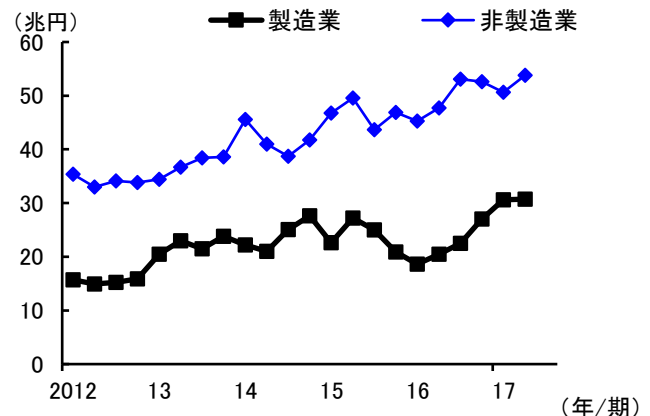
- (1) 今冬の賞与を展望すると、民間企業の一人当たり支給額は前年比+0.8%と年末賞与としては3年ぶりのプラスとなる見込み(図表1)。
(*)厚生労働省「毎月勤労統計」事業所規模5人以上ベース。
- (2) 背景には、企業収益の改善傾向(図表2)。製造業では、輸出が持ち直したうえ、為替相場が企業の想定レートを上回る円安水準で推移し、収益の押し上げに作用。非製造業も、内需の堅調を背景に、高水準を維持。
- (3) もっとも、企業規模別にみると、大企業の伸び悩みが続く見込み。本年初頭に海外経済等の不透明感が高まったため、2017年度の春闘賃上げ率は前年並みにとどまったうえ、2017年度夏季賞与は大企業でマイナスに(図表3)。大企業では、年間の賞与支給ファンドを夏前に決定する「夏冬方式」が全体の8割弱にのぼるため、今年末賞与についても全体を下押しする見込み。一方、中小企業は、支給時期直前の業績回復が賞与に反映され易いため、堅調を維持する見込み。
- (4) 賞与支給総額は、同+2.9%増加する見込み(図表4)。一人当たり支給額の増加は小幅ながら、支給労働者数が引き続き堅調に増加することが主因。
- (5) 国家公務員は、同+3.7%の増加となる見込み。2017年人事院勧告における、支給月数の引き上げ(0.1月分)と月例給の引き上げ(0.15%)が押し上げに作用。

(図表1) 2017年末賞与(一人当たり)の見通し

	民間企業			国家公務員
	製造業	非製造業		
2016年夏季(実績)	2.3	0.5	2.7	1.6
2016年末(実績)	▲0.1	▲1.0	0.1	7.0
2017年夏季(実績)	0.4	0.2	0.4	1.9
2017年末(予測)	0.8	0.4	0.9	3.7
支給額(万円)	37.3	49.4	35.0	73.1

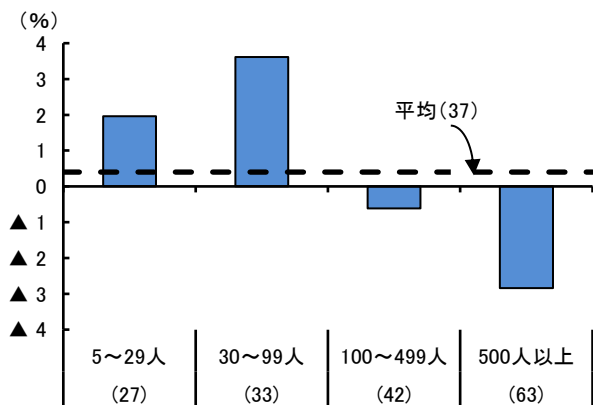
(資料)厚生労働省、総務省、人事院、予測は日本総合研究所

(図表2) 経常利益の推移(季節調整値、年率)



(資料)財務省「法人企業統計季報」

(図表3) 企業規模別の2017年夏季賞与の伸び率



(資料)厚生労働省
(注)()内は平均額(万円)。

(図表4) 賞与支給総額(前年比)



(資料)厚生労働省